

研究課題名：

当院人間ドックで発見された肺非結核性抗酸菌症症例の検討

1. 背景・目的

慢性難治性疾患である肺非結核性抗酸菌症が中高年女性を中心に増加しており、現在注目されております。

一方、肺非結核性抗酸菌症は人から人への感染がないことから登録制となっておらず、慢性難治性疾患でありかつ増加傾向であるのにもかかわらず疾病動向が十分に把握できていません。有病率推定に有望と思われる、比較的健康的な集団を対象とする健診施設からの報告がほとんどなく、統計で分かる死亡者数と予後調査から推定有病率を算出する試みが行われております。

日本人間ドック学会の全国調査では、ドック受診者の内 60 歳以上の割合は 20%強であるのに対し、当院人間ドック受診者は 60%以上であり高齢化が著しく、当院人間ドック受診者層に多く発見される可能性があります。

以上から当院人間ドックで発見された肺非結核性抗酸菌症症例を検討し、その傾向の把握及び肺非結核性抗酸菌症の有病率の推定を試みることは、有意義と思われれます。このため本研究を計画いたしました。ご協力をお願い申し上げます。

なおこの研究は結核予防会結核研究所疫学部や、結核予防会複十字病院呼吸器センターとの共同研究であることを申し添えます。

2. 対象

2009 年度から 2013 年度にかけて当院人間ドックを受診されたのべ 16224 人を対象としています。

3. 研究方法

①まず当健診センターの健診システムから胸部異常陰影該当者を抽出します。

②該当者のうち、当院を精査目的で受診された方は、追跡調査書の返答や電子カルテを確認します。CT 検査において有所見者については、画像や検査成績を確認します。

③他院で精査を受けた方は追跡調査書の返答を参照します。

④②③のデータをもとに疑い例を含めた肺非結核性抗酸菌症該当例をまず抽出します。疑い例の内、確定例を抽出し、肺非結核性抗酸菌症の有病率を算出します。

⑥さらにドック受診者の年齢階級毎の人数を出し、肺非結核性抗酸菌症の年齢階級毎の有病率を算出します。

4. 費用

ドックですすでに行われたデータを参照しているため、今回の研究において新たな費用の発生や負担は生じません。

5. 受診者に対する不利益および安全性について

データを個人が特定できない形に変換した上で研究・発表を行いますので、個人が特定されることはありません。共同研究者にデータを呈示することがありますが、個人を特定できない形に変換したものを呈示いたします。

すでに終了した検査を参照しますので安全性も問題ありません。

以上から不利益はないものと考えております。

6. 研究成果について

学会発表や論文化を目指しています。

7. 医学上の貢献度の予測

健診施設における肺非結核性抗酸菌症の状況や有病率が分かり、学会発表され論文化されれば、慢性難治性疾患であるこの疾病について広く周知でき、かつ実情が把握できることから様々な対策を立てることが可能となります。その点で医学に大きな貢献ができると思います。

8. 研究実施場所

当院健康管理センター

9. 責任者

当院健康管理センター 福岡俊彦

10. この研究についてご自分のデータを使用されたくない方は、責任者である健康管理センター福岡俊彦までご連絡ください。